ごあいさつ 1
事業・商品紹介 3
トピックス 5
2004年3月期第3四半期連結業績のご報告 7
会社概要 9
広報誌のご紹介 9
テレビCMのご紹介 10

クリタ株主通信

（2003年4月1日～2003年12月31日）

Vol.7

栗田工業株式会社

ごあいさつ

株主・投資家の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申しあげます。

また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

>> 業績のご報告

当社グループは、企業ビジョンである「水と環境の先進的マネジメント企業」の実現を目指し、当期より3カ年の新中期経営計画「PA-5」(Powerful Advance 2005)を推進しています。

その初年度である当期の第3四半期まで(2003年4月1日～2003年12月31日)の連結業績は、受注高は前年同期比17.5%増の110,677百万円、売上高は同2.4%増の89,922百万円となり、営業利益も4,504百万円と計画どおり推移しています。なお、当社グループの売上高については、第1四半期、第3四半期に相対的に低くなる傾向がありますが、これは主に水処理装置事業における売上高の計上が中間期末および期末に集中するためです。

>> PA-5計画の進捗状況

PA-5計画の狙いは、「水と環境」の分野において、コストダウン・生産性向上・環境負荷低減などのお客様のニーズに対し、当社グループの強みを活かした事業、すなわち、水処理薬品・水処理装置・メンテナンスを融合させた「ソリューション事業」や「アウトソーシング事業」を展開し、国内市場におけるシェア拡大および海外市場への事業拡大を進めることです。

また、新技術・新商品を開発し、新事業を立ち上げて成長に勢いを加えることにも注力しています。

国内市場においては、お客様のニーズに的確に対応することにより、水処理に関する管理業務の一括請負などのサービス契約の受注が伸長しています。また、水処理施設の建設・保有から運転管理までを請け負う「超純水供給事業」も2004年1月に3件目がスタートするなど、当社グループ独自の新しいビジネスモデルが評価され、実績を積み上げています。

海外市場においては、アジアにおける電子産業分野で、お客様の活発な設備投資を着実に受注につなげています。特に、液晶分野においては確固たる地位を築いています。また、クリタ・ヨーロッパ社を通じて欧州企業の石油プロセス用薬品事業を買収することにより、中近東や欧州における、お客様の生産プロセスから水処理に至る総合的なソリューション事業の拡大を目指しています。

さらに、新事業においては、新エネルギー事業への参入を目指して水素ステーションや燃料電池などの国家プロジェクトへの参加を果たし、事業化への歩みを着実に進めています。

>> One and Only ～クリタだから、できること～

当社グループは、「水と環境」に関する薬品・装置・メンテナンスの事業をバランスよく保有している世界的にも類がない企業グループです。この経営資源を最大限に活かし、「クリタだからできる」付加価値の高いサービスを通じてお客様や社会に幅広く貢献し、「この世界になくてはならない企業」となることをグループ一丸となって目指してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、引き続き、当社グループの今後の展開になお一層のご支援を賜りますようお願い申しあげます。

2004年3月

代表取締役社長

藤野　宏

事業・商品紹介

当社グループは、「水と環境」に関する製品、技術、サービスを幅広く提供しています。事業部門としては、水処理に関する薬品類の製造・販売とこれに関わるサービスを行う「水処理薬品事業」、水処理に関する装置・施設などの製造・販売およびメンテナンス・サービスを行う「水処理装置事業」の2つに分けられます。

Water Treatment Chemicals

ゴミ焼却施設向け薬品
「アッシュナイト®」「シャインスター®」

「アッシュナイト®」は、ゴミ焼却時に発生する飛灰に含まれる有害な重金属を固定化させ、埋め立て処分後に重金属が土壌に溶け出すことを防止する薬品です。

「シャインスター®」は、ゴミ焼却時におけるダイオキシン類の生成を抑制するとともに、すでに生成されたダイオキシン類を吸着・除去することができる薬品です。

近年の法規制強化の流れを受け、土壌汚染や大気汚染を防止する薬品として、共に需要拡大が見込まれています。

アッシュナイト®

ボイラ薬品
冷却水薬品
プロセス用薬品
ゴミ焼却施設向け薬品
土木薬品
空調薬品

水処理薬品事業

オフィスビルや工場におけるボイラや冷却塔など、さまざまな施設に必要な水処理薬品を、用途に合わせ豊富に取り揃えています。

総売上高に占める当事業の売上高比率
33.4%※

※2003年3月期実績

排水処理薬品

土壌・地下水汚染浄化事業

有害物質で汚染された土壌・地下水の調査から浄化処理の実施、さらには浄化後の土地の有効活用に至るまで、一貫したサービスを提供しています。

水処理装置事業

社会や暮らしの中で用いられる水をつくり、また、使われた水を適切に処理し、産業の発展と環境保全に貢献しています。

総売上高に占める当事業の売上高比率
66.6%※

排水処理装置

用水処理装置

メンテナンス事業

消耗品の交換や定期的な補修による性能維持に加え、お客様のコスト低減や処理水質向上などのニーズに応える改造工事による機能強化も行います。

環境衛生施設（生活排水処理他）

オゾンによる有機汚泥発生抑制の技術「バイオリーダー®」

食品、医薬、石油化学などの工場で排水処理をする際に大量に発生し、産業廃棄物として処分される有機汚泥の発生量を削減できる画期的な技術、それが「バイオリーダー®」です。有機汚泥の一部をオゾンと反応させて生物分解しやすい形にし、それを微生物に食べさせることにより余剰汚泥の発生を抑制します。

国内で排出される産業廃棄物のうち46.6%*は汚泥が占めており、「バイオリーダー®」は産業廃棄物削減に大きく貢献するものです。

*環境省発表の平成12年度データより。数値は有機汚泥と無機汚泥の合計。

バイオリーダー®

Water Treatment Facilities

>> 環境負荷低減を追求した工場の実現へ

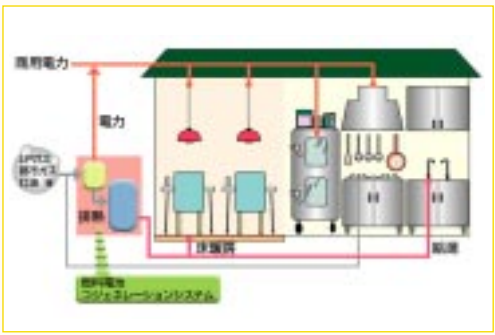
2004年1月から、世界で初めて液晶パネルから液晶テレビまで一貫生産するシャープ(株)亀山工場(三重県亀山市)が稼働しています。同工場では、製造工程で使用された水(1日最大9,000トン)をすべて回収し、クリタの微生物を利用した排水処理技術や逆浸透膜技術*などをフルに活用した最新の排水処理設備で処理することによって、100%循環利用しています。近くには県下トップクラスの清浄度を誇る鈴鹿川が流れていますが、製造工程からの排水は鈴鹿川へ一切放流されません。クリタの技術は、同社の目指す「スーパーグリーンファクトリー」、すなわち環境負荷低減を徹底して追求した工場の実現に貢献しています。

シャープ(株)亀山工場

>> 定置用燃料電池の実証実験に参加

クリタは、燃料電池の実用化・普及の促進を目的とした「定置用燃料電池実証実験」に参加しています。この実験は、経済産業省の補助を受けて(財)新エネルギー財団が実施しているものです。住宅やオフィスなどさまざまな使用環境のもとで、約1年間にわたり実際に燃料電池コジェネレーションシステム*を稼働させ、データ収集や実用化に向けた課題を抽出していきます。

燃料電池自動車用水素供給ステーションの国家プロジェクトに続き、本実証実験への参加により、クリタは今後も新エネルギー事業の育成を進めていきます。



燃料電池コジェネレーションシステムの例

>> クリタ・ヨーロッパ社が欧州企業から事業買収

2003年7月、クリタ・ヨーロッパ社はベルギーのピトコ（PITCO）社から石油プロセス用薬品事業を買収しました。石油プロセス用薬品とは、石油精製や石油化学プラントにおいて、生産性の向上などを目的として用いられる薬品です。ピトコ社は、従来の石油プロセス用薬品だけでなく、製造工程において発生するシアンなどの有害な生成物の発生抑制と吸収除去に関する独自の技術を有しています。

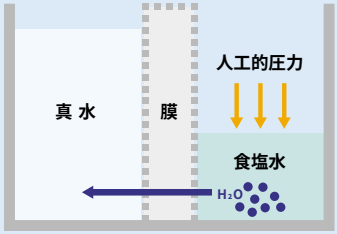
クリタ・ヨーロッパ社はこの買収によって、石油プロセス用薬品技術とクリタの持つ水処理技術を統合し、中近東や欧州における、お客様の生産プロセスから水処理に至る総合的なソリューションを強化していきます。

石油化学プラント（イメージ）

用語解説

逆浸透

セロハンなどの半透性の膜で仕切った容器に真水と食塩水を入れると、濃度の低い真水は、濃度の高い食塩水を真水と同じ濃度にしようと、食塩水側に移動します。この性質を「浸透作用」といい、このときに働く力を「浸透圧」といいます。この「浸透作用」とは逆に、食塩水側に人工的に浸透圧以上の圧力を加えることにより、膜を通して食塩水を真水に浄化することが可能になります。これを「逆浸透」といいます。クリタの超純水製造装置や海水淡水化装置などもこの「逆浸透」の原理を応用しています。



燃料電池コジェネレーションシステム

コジェネレーションとは「Co（共同の）Generation（発生）」という名前の由来のとおり、ひとつのエネルギー源から電気や熱など複数のエネルギーを取り出すシステムです。燃料電池では、水素と酸素から電気を作り出し、その過程で発生する熱を用いて冷暖房や給湯などを行うことができます。

2004年3月期第3四半期連結業績のご報告

（2003年4月1日から2003年12月31日までの9カ月間の業績）

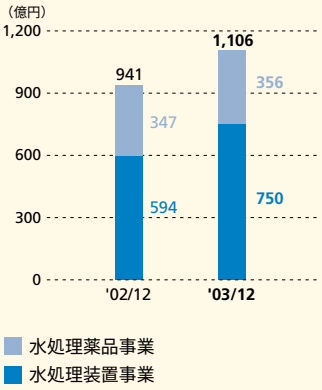
受注高および売上高（連結ベース）

（単位：百万円）

	当第3四半期 (2003.4.1～ 2003.12.31)	前第3四半期 (2002.4.1～ 2002.12.31)	前会計年度 (2002.4.1～ 2003.3.31)
受注高	**110,677**	94,193	128,431
水処理薬品事業	**35,604**	34,746	46,450
水処理装置事業	**75,072**	59,446	81,981
売上高	**89,922**	87,846	141,628
水処理薬品事業	**34,962**	34,863	47,116
水処理装置事業	**54,959**	52,983	94,512

注（1）当期から、四半期ごとの連結業績について情報を開示しています。
（2）前第３四半期の業績については、受注高と売上高のみ開示しています。

受注高



営業の概況

当第3四半期における当社グループの受注高は前年同期比17.5％増の110,677百万円、売上高は前年同期比2.4％増の89,922百万円と順調に推移しました。また、営業利益は4,504百万円、経常利益は4,541百万円、四半期純利益は3,251百万円となりました。

>> 水処理薬品事業

- 主力商品のボイラ薬品、冷却水薬品、排水処理薬品は、受注高がやや減少
- 紙・パルプ産業向けプロセス薬品、ゴミ焼却施設向け薬品、水処理管理の一括請負などのサービス契約の受注高が増加

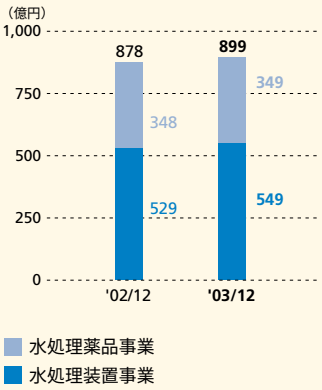
以上の結果、水処理薬品事業全体の受注高は前年同期比2.5％増の35,604百万円、売上高は前年同期比0.3％増の34,962百万円となりました。なお、水処理薬品事業の受注高と売上高については、特定の四半期に集中する傾向はありません。

>> 水処理装置事業

- 電子産業分野向けの主力である超純水製造装置は、国内および中国・台湾・韓国などにおいて受注高が順調に推移
- 医薬・食品・その他一般産業向け水処理装置や土壌浄化事業は、長引く設備投資の低迷と競争の激化により受注高が減少
- 官公需が主となる環境施設分野では、し尿などを処理する汚泥再生処理センター向けの更新案件・補修工事や浄水用膜ろ過設備などの受注を確保

以上の結果、水処理装置事業全体の受注高は前年同期比26.3％増の75,072百万円、売上高は前年同期比3.7％増の54,959百万円となりました。なお、水処理装置事業の売上高については、中間期末および期末に集中する傾向があります。

売上高



連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

	当第3四半期 (2003.4.1～2003.12.31)	前会計年度 (2002.4.1～2003.3.31)
売上高	89,922	141,628
売上原価	60,867	97,846
売上総利益	29,054	43,781
販売費及び一般管理費	24,550	31,474
営業利益	4,504	12,307
営業外収益	686	1,012
営業外費用	649	919
経常利益	4,541	12,400
特別利益	1,414	—
特別損失	—	2,136
税金等調整前四半期(当期)純利益	5,955	10,263
法人税・住民税・事業税	2,596	4,674
少数株主利益	107	112
四半期(当期)純利益	3,251	5,476

連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)

	当第3四半期 (2003.12.31現在)	前会計年度 (2003.3.31現在)
(資産の部)		
流動資産	105,454	107,180
固定資産	66,115	66,508
資産合計	171,570	173,689
(負債の部)		
流動負債	34,905	38,643
固定負債	12,585	13,120
負債合計	47,490	51,763
(少数株主持分)		
少数株主持分	1,058	956
(資本の部)		
資本金	13,450	13,450
資本剰余金	11,398	11,398
利益剰余金	102,713	101,637
その他有価証券評価差額金等	1,033	△87
為替換算調整勘定	△685	△543
自己株式	△4,888	△4,885
資本合計	123,021	120,969
負債、少数株主持分及び資本合計	171,570	173,689

■ 売上高、営業利益

売上高が前会計年度と比較して相対的に低い水準にあるのは、主に水処理装置事業の売上高の計上が期末に集中するためです。また、販売費及び一般管理費は特定の四半期に集中することなく発生するために、売上高に対する営業利益の割合は前会計年度と比較すると相対的に低くなります。

■ 特別利益

保有していた銀行株式を売却したことにより、当第3四半期は、1,414百万円の特別利益を計上しました。

注(1) 前年は第3四半期決算を実施していないため、前第3四半期については記載していません。
(2) 当第3四半期における会計処理の方法については、法人税等の計上にあたり、法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しています。その他影響度が僅少なものにつき、一部簡便な手続きを用いています。

会社概要

CORPORATE DATA

■ 商 号	栗田工業株式会社(Kurita Water Industries Ltd.)
■ 本社所在地	東京都新宿区西新宿三丁目4番7号
■ 設立年月日	1949年7月13日
■ 資本金	134億5,075万円(2003年9月30日現在)
■ 従業員数	1,695名(2003年9月30日現在)
■ ホームページアドレス	http://www.kurita.co.jp
■ お問い合わせ先	経営企画室 企画部 広報課 TEL.03-3347-3250　E-mail：ir@kurita.co.jp

栗田工業ホームページ

広報誌のご紹介

PUBLICATION

ご希望の方にお届けします。お気軽にお申し込みください。

『AQUALOG』

「水と環境の先進的マネジメント企業」を企業ビジョンとするクリタがお届けするPR誌です。「AQUALOG」は、水の「AQUA」と言葉の「LOGUE」を組み合わせた造語です。水と人と環境がやさしく語り合う、クリタの理想が込められています。水と環境がわたしたちに発信するさまざまなメッセージを、楽しい話題やリアリティのある写真でお伝えしています。

※ AQUALOG は無料です。
※お申し込みいただいた方には定期的(年3回発行)に送付いたします。なお、No.79(右写真)については在庫がなくなり次第締め切らせていただきます。

『会社案内2003−2004』

新たに日本語版、英語版の会社案内を作成しました。クリタの企業理念や新中期経営計画「PA-5」の概要および各事業の紹介を掲載しています。チャートや写真を多用することで、クリタについてよりご理解いただける構成を心掛けました。

■ お申し込み先

経営企画室 企画部 広報課
TEL.03-3347-3250　E-mail：ir@kurita.co.jp
ホームページからもお申し込みいただけます。
http://www.kurita.co.jp

テレビCMのご紹介

クリタの新しいテレビCMが2003年11月17日から放映されています。このCMはクリタの掲げる新しいメッセージ「One and Only ～クリタだから、できること～」に基づいて企画制作されました。

シリーズ第1回は、京都・円山公園の枝垂れ桜をはじめとして多くの桜を守ってきた「桜守」、第十六代佐野 藤右衛門さんを紹介しています。佐野さんの、長い間、桜と自然、そして人を見つめてきたからこその深いメッセージに耳を傾けてください。

毎週月曜日　21：00～21：54
テレビ朝日系『たけしのTVタックル』にて放映中

［出演者］
佐野（さの） 藤右衛門（とうえもん）

＜プロフィール＞

京都・円山公園の枝垂れ桜をはじめ、日本各地はもとより世界中で桜の保存や普及、枯れかけた木の再生に努める「桜守」。幹をたたいて音を聞き、花びらをなめるだけで桜の状態が分かるという。1997年、その長年の実績に対し、ピカソ賞（ユネスコ本部が世界で最も芸術文化に功労のあった人を表彰する賞）を授与される。

サービスロゴタイプ

「水と環境の先進的マネジメント企業」を企業ビジョンに掲げ、実践するクリタのサービスロゴタイプには、５０年以上にわたって、水と環境についての技術を究め、社会と産業の発展に貢献し続ける私たちの強い意志と自信が込められています。

株主メモ

■決算期
3月31日

■定時株主総会
6月

■利益配当金受領株主確定日
3月31日

■中間配当金受領株主確定日（中間配当を行う場合）
9月30日

■基準日
3月31日
そのほか臨時に必要があるときには、あらかじめ公告いたします。

■公告掲載新聞
日本経済新聞

■名義書換代理人
中央三井信託銀行株式会社
東京都港区芝三丁目33番1号

■同事務取扱所
中央三井信託銀行株式会社
証券代行部（証券代行事務センター）
〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話（03）3323-7111（代表）

■同取次所
中央三井信託銀行株式会社
　全国各支店
日本証券代行株式会社
　本店および全国各支店

■諸手続きお問い合わせ
　住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求、配当金振込指定等に必要な各種手続用紙のご請求は、中央三井信託銀行のフリーダイヤル、またはホームページで２４時間受付ております。
　なお、保管振替制度を利用されている方は、お取引証券会社を通じてお申し出ください。

【フリーダイヤル】
0120-87-2031
【ホームページアドレス】
http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

水と環境の先進的マネジメント企業
栗田工業株式会社
KURITA

PRINTED WITH SOY INK
R100
古紙並有率100%の再生紙を使用しています